

4 渋谷 乃田
for Shibuya

表参道駅が最寄りのギャラリーに勤務する30代女性。今春、ディレクターに昇進。

表参道で働き始めて何年になったかな。丁度、駅がリニューアルされたときと同じ頃だった。今の会社で働きたくて、そしてこのまちに憧れていた。忙しい毎日に追われていると、駅と職場の往復で結局まちはスルーしちゃって、もっぱらエチカにお世話になっている。ここは本当にいいところいい場所がある。プレゼンが上手いかなかったとき事務所にすぐに帰れなくて、随分と長くコーヒーで過ごしたことがあった。ホームに降りると、木のゲートのような空間が静かに優しく、でもとても力強く「真っすぐ進め」って道を開いているように感じたこともあった。沢山の光が集まる柱の前で待ち合わせしたときも、すごく緊張したけど、素直な自分が出せた。「きれいだね」って言葉に勘違いして恥ずかしかったな。このまちにこの駅があつてよかった。

G02 表参道

～ミライ参道～

「ワクワクさせてよ」って心がミライ参道をくぐらせる。今までとは違う自分と出会うことを期待して。

ホームには列柱をつなぎ、連続するけやきのゲート。どこか異空間に迷い込んだような雰囲気を感じつつ、木の素材感が力強くも暖かな印象。ゲートをくぐり、ここから出発する。ミライ参道を通り抜け、胸躍る旅に出かけよう。

時・光・わたしのミライ

TIME, LIGHT & FUTURE OF MINE

トレンド。それは留まることのない流れ。まちは常に変化し、人々を刺激する。ときに翻弄する。駅は、私たちがまちに力強く送り出してくれる。そしてやさしく迎えてくれる。

『ファッションが人をつなぐ街』

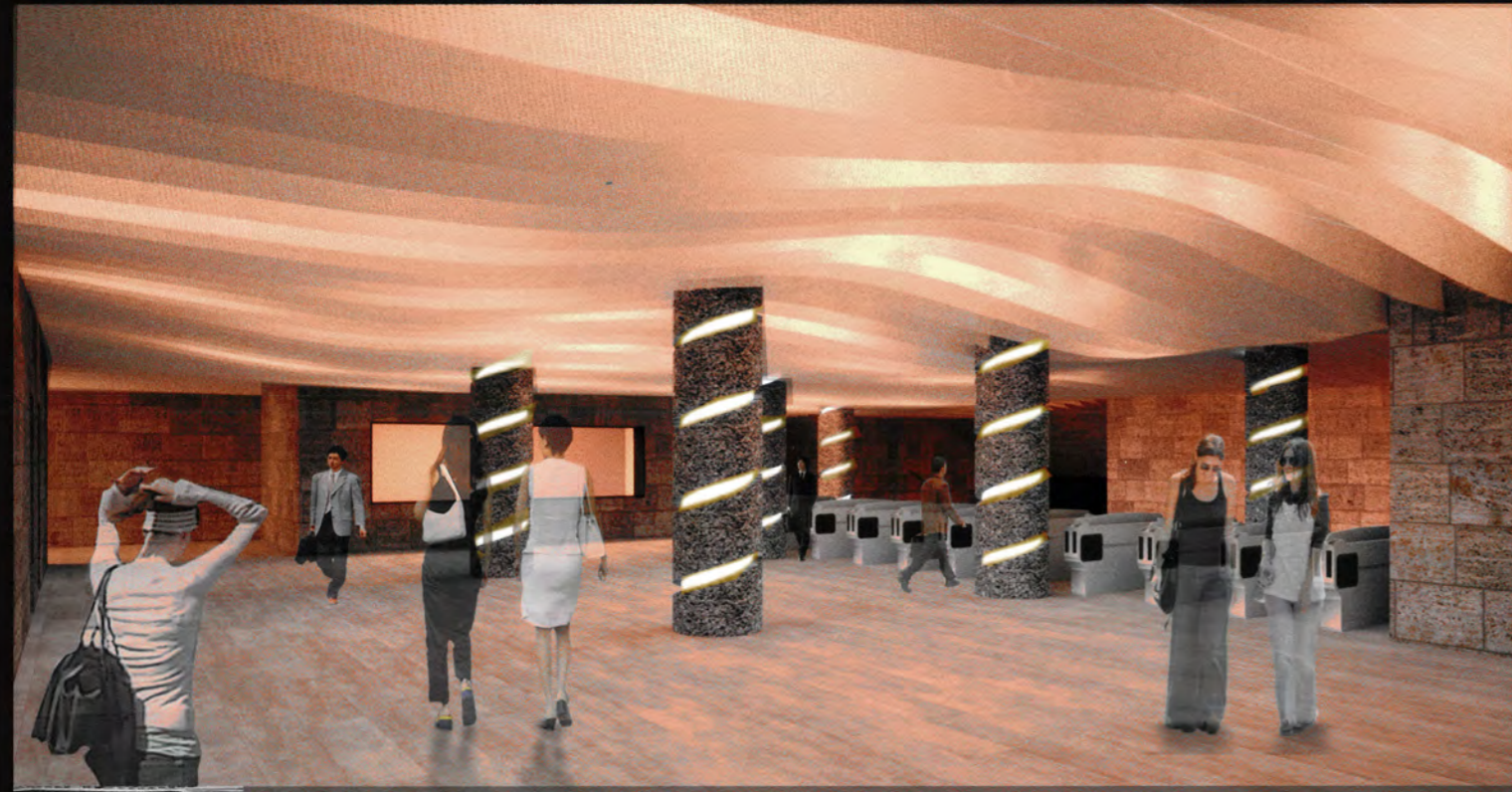
人、建築、インテリア、それぞれの装いが集まり、また更なる人々の装いを集める。そこに行くと、今までとは違う自分と出会うかもしれない。ワクワクをポケットに入れて、ファッションの街へ。

トレンドエリア3駅それぞれの個性がテキスタイルで表現されている。訪れた人々はまるで新素材の服に包まれたような、柔らかく不思議な空間に包まれる。

目には見えなかった『時』『光』そして『わたしのミライ』が結晶となる。



表参道駅のコンコースには天井から1本の柱に向かって攪り集まるファイバー。糸が紡がれ布となり、やがて人々の装いとなる様は、発展する表参道の姿とオーバーラップする。この空間を支配する無数の光る糸。それはファッションが人をつなぐこの街のシンボルとなる。



G04 青山一丁目

～『時』ひとえ ふたえ～

時代は人が作る。時代は流れない。積み重なる。彼らの思いは生き続け、色褪せない。地層のように積み重なり結晶となる。



歴史を彩った人々にゆかりの深い街。眼に浮かぶその時代の偉人たちの顔とともに流行った個性的なファッション。膜材のスリットは、積み重ねられていく時代の流れを表現し、やわらかな質感と光でタイムレスな空間をつくりながら、郷愁感も同時に演出。石の柱から漏れ出る光はこの地の秘めたパワーを解き放つ。

大学の公開講座を受けたり、図書館で史書を借りて読み取ったり。仕事場からたった二駅なのに、ここはとても静かで落ち着いた感じがあつて、仕事でカチカチになった頭を緩めてくれる。今日も日本の歴史に触れて、ちょっとだけ自慢げになって駅に向かう。いつものやわらかな空間が私を迎えてくれる。偉人たちが歴史を刻み、築いてきた時代の流れとシンクロする瞬間だ。じんわりと穏やかな気持ちに包まれると、ちょうど電車が入ってきた。



G03 外苑前

～『光』手のひらに落ちる木漏れ日～

絵画館に続く銀杏並木。重なりあう扇葉の隙間から木漏れ日が手のひらにこぼれ落ちた。外苑前は都会の喧騒をふと一瞬忘れられる街。



特殊パネルの隙間から漏れ出る光が、木漏れ日をイメージさせる。降り注ぐ光が天井から柱まで結晶となる瞬間を表現した。シャープな印象は未来感を感じさせ、絵画館の歴史を感じさせるような壁が、高揚感のある空間に落ち着いた表情を見せている。

職場から歩けるのに、野球の応援には必ず銀座線に乗っている。駅から神宮球場に向かうことがなんだか楽しさを倍増してくれる。きっと2020年のTOKYOオリンピックから始まっている。あのとき電車の中はスゴい人でぎっしり詰まっていたけど、駅に着くとスッと世界が変わり、人の流れはまとまりがあつて、歩くたびにどどん気持が高まっていった。駅はまるで地上の光が差し込んでいっているようでそこに青空を感じた。そしてキラキラと輝くものがあった。銀杏並木がイメージ的だけど、ここはスポーツの聖地だ。今もこの駅に来ると、スイッチが入る。